

行政視察報告書

教育民生委員会 行政視察		令和元年7月24日（水）～7月26日（金）
視察先 及び 調査事項	郡山市	大安場史跡公園の整備と文化財の活用について
	文化財活用 センター	文化財活用センターの取組みについて
	調布市	不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について
	八王子市	(1) 不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について (2) 市立中学校における夜間学級の取組みについて

郡山市・・・平成21年に大安場史跡公園がオープンし、年間5万人の来場で昨年50万人の入館者数を達成。約1500～1600年前に造られた5基の古墳からなる大安場古墳群を中心とした史跡公園です。大安場1号墳は全長約83メートルと、東北地方で最も大きな前方後方墳であり、2～5号墳は丸い形をした円墳です。

副葬品の中でも、緑色凝灰岩製（りよくしよくぎょうかいがんせい）の腕輪形石製品は、大和政権とのつながりを示す貴重な資料です。元々、雑木林であった所を平成3年に全長70メートル超の巨大な丘が発見され、それが後の測量・発掘調査にて詳細が分かり、平成12年に「東北地方における古墳時代の政治・社会・古墳文化の波及を考える上で重要である」と国指定をされました。史跡整備前に、すでに住宅地があったことから、変遷の画像を見ても古墳に隣接して住宅地が広がっているのは、不思議な感じもします。

郡山市は平成9年に中核市移行しており、2022年度設置予定の（仮称）歴史情報・公文書館施設整備に向け、次の世代（子供たち）を中心として、郡山市を訪れる幅広い層も含めてターゲットに設定し、郡山の未来につながる拠点を目指している。

県指定となっている郡山市の開成館や郡山小学校（現・金透小学校）も当初は擬洋風建築であり、本市の旧開智学校とよく似ています。

平成28年4月に日本遺産認定となった猪苗代湖・安積流水・安積開拓を結ぶストーリーを、保存重視から活用重視のきっかけとしてPR促進しています。

今後の松本にも共通することが多い市であり、文化財の活用方法を参考にしていきたいと考えます。

文化財活用センター・・・全国各地の小中学校・高等学校の児童・生徒の皆さんに文化財に親しんでいただくための「ぶんかつアウトリーチプログラム」があります。

教室で国宝や重要文化財、海外の美術館が所蔵する名宝と向き合うことができます。

本物と見分けるのが難しいくらいの高精細複製品を使用しています。図画工作・美術の授業はもちろん、古文・総合的な学習の時間や探求の時間などでの活用を想定しています。

新たな年齢層への掘り起こしとしては、修学旅行生も含め、学生が来てくれるようになり、またインバウンドの利用は3割、常設展だと5割を超えている。またキャプションなどの多言語対応は日・英・中・韓の4カ国対応、パンフレットは7～8カ国対応。国際交流室という部門でキャプションを直訳でなく、外国人に分かりやすい解説に訳している。例) 徳川家康 (日本では誰もが分かるが) → 将軍 (あえてこのように訳す)

文化財活用センターと東京国立博物館は共同で「収蔵品貸与促進事業」に取り組んでいます。これは地方公共団体の博物館・美術館に対し、文化財活用センターが作品輸送費用等を負担し、貸出を行う事業です。東京国立博物館は国宝 89 件重要文化財 643 件をはじめとする、117460 件の文化財を所蔵しています。この中には、地方にゆかりのある文化財が多く含まれており、地方博物館等に地域性に即した館蔵品の貸与を積極的に行うことで、地方創生に寄与することを目指します。PR方法として、地域ではアニメや映画などロケ地の題材となった場所や、撮影で使用されているところを規則にのっとって様々な形で使うことで広げていきたいと言われていました。その中で、重要文化財→国宝への格上げにつながるような動きが見られれば効果を感じることが出来ると思われれます。

調布市・・・調布市立第七中学校に調布市の不登校児童・生徒への支援の在り方として、社会的に自立することを支援する新たな学校の学びの場として、分教室型不登校特例校「はしうち教室」を設置した。

定員は各学年 15 名ずつで、学習内容を達成させるための工夫が 3 点されています。

- ① 表現化の設定：各教科等で身につけた力を、各自の興味・関心のある学習内容に活用し、自分の得意とする手法で表現する。劇団員にも来てもらい、表現力を学ぶ。
- ② コミュニケーションスキルトレーニング (略称：CST) の設定：不登校生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした教育活動の設定
- ③ 個別学習の時間を設定：一人一人の状況に応じた指導体制の充実を図るために「個別学習」の時間を設定し、不登校による未学習の内容を補う時間を確保
- ④ 学校行事、総合的な学習の時間と関連した取り組みを実施

苦手なことを埋めようというよりは、好きなことを伸ばす。ドラムやベースなど楽器を置いてある部屋があり、使用できるようになっていました。また、授業をする教室は毎日くじ引きで席を決め、学年も男女構成もバラバラでも対応力をつけるためにしているそうです。

メリットは教育課程の編成を改善することで、はしうち教室に来られるようになった子が増えてきた。昨年卒業の 15 名は、みな志望校に進学が出来た。

デメリットは教員の確保（9 教科）で、技術など特殊科目についての指導不足が心配される。

八王子市・・・平成 13 年度の時点において、八王子市の不登校児童・生徒の割合は 1.44%であり、国（1.23%）や東京都（1.30%）を上回る状況であった。そうした状況を踏まえ、それまで実施していた適応指導教室や教育総合相談室等での対応に加え、不登校児童・生徒に合った教育課程を実現できる小・中一貫教育を推進する新しい学校として「八王子市立高尾山学園小学部・中学部」を設立することとし、平成 15 年「不登校児童・生徒のための体験型学校特区」の申請に至り、平成 16 年 4 月に開校した。

設立趣旨として最初から不登校対策を目的とする学校であり、まずは家から出すこと→次に人との関わりや学力をつけられるようにする。登校への支援策として、楽しい・嬉しい・美味しいと感じる＋安心できる場所と学ぶ意欲が出るように、体験型講座や校外学習で様々な体験をさせる。保護者力の向上も重要であるため親子参加での地域行事体験も勧めている。

昨年の 32 名の卒業生（中学 3 年生）の進路は 100%進学しており学びの成果も出ている。

児童・生徒が授業に出られない時に気持ちを落ち着けたり、友達と遊ぶことで元気を取り戻したりしたい時にいつでも使用できるプレイルームがあります。教員や保育士の資格を持つ専門スタッフが遊びや行事を通して子供たちと関わっています。ボードゲームやビリヤードなども出来るようになっています。

夜間学級については東京都に 8 校設置されており、生徒は多国籍（アジア諸国が主）だが、日本人については学び直しの目的が多い。

所感 文化財活用については保存と活用の方法を、他の施設の方法も参考に積極的に進めていくべきだと考えます。本市の更なる観光地としての活性化に役立てていけるようにしていきたいです。文化財のインバウンド対策も引き続き課題です。

不登校支援については、八王子の高尾山学園の校長先生が民間登用の方で、とても興味深いお話をしてくださいました。「子供時代に不登校を経験した子は、大人になってから引きこもりには絶対にならない」と断言されていたのが印象的でした。子供たちを信じて見守る姿勢が職員の皆さんに共通しており、八王子市としても職員の質を高めるために市独自で講師を呼び、研修を行ったりしているそうです。新卒教員の社会経験がないことも指摘され、教員の社会性が必要とも言われていました。

令和元年 8 月 8 日

松本市議会議長 村上幸雄様

委員 内田麻美